

## 卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和3年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	名古屋大学	整 理 番 号	2002
プログラム名 称	ライフスタイル革命のための超学際移動イノベーション人材養成 学位プログラム		
プログラム責任者	佐宗 章弘	プログラムコーディネーター	河口 信夫
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のもとで初年度・2年度を迎えざるを得なかったが、オンライン化を積極的に進め、海外出張・海外研修を除いて、ほぼ順調にスタートしている。</li> <li>・履修生は24名の修士課程学生、4名の博士課程学生を採用する計画だったが、修士課程は計画を上回る34名の学生が履修している。</li> <li>・懸念されていた文理融合も、人文学研究科・経済学研究科・法学研究科などの学生がおり、理系・文系双方の学生たちもそれぞれ文理間の交流を肯定的に捉えていた。</li> <li>・女性(1期生28%、2期生21%)、留学生(1期生44%、2期生21%)に加えて、社会人も履修をする多様な構成となっており、相互にポジティブな刺激となっている印象を受けた。文理双方の教員による超学際教員討論型講義なども積極的に取り組まれている。</li> <li>・学生たちは卓越性や超学際性についてよく理解し、自分自身の言葉で説明できていた。企業との共同研究への意欲もうかがえた。履修生を4つの班に分けて班ごとのミーティングを行う班活動が活発に行われており、留学生との間での英語によるコミュニケーションの機会ともなっている。</li> <li>・縦糸型・横糸型コースワークをはじめカリキュラムもよく工夫されており、アクティビティ・ポイント、アクティビティ・ツリーなどを通じて弾力化と順序化をはかっている。</li> <li>・東海地域におけるモビリティ産業の集積、名古屋大学や卒業生によるベンチャー企業群との連携を活かした、連携企業とのメンター制度の実施も本格化しつつある。</li> <li>・6つのリーディング大学院・先行する3卓越大学院の経験を踏まえて、計画どおりに、ほぼ着実に進捗しつつあると評価できる。</li> </ul> <p>【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総長直轄の博士課程教育推進機構が作られ、4つの卓越大学院プログラムを統括し、大学院改革のヘッドクォーターとして、博士課程教育全体の高度化を推進しつつある。</li> <li>・4卓越大学院プログラムの連携が、大学院教育全体の改革にあたっての強みとなっており、大学・産業界・地域発展の好循環モデルの中核拠点となることが期待できる。</li> </ul> <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフスタイル革命の具体的な内実とは学生たちとの協議の中で、模索中である。スマート・コミュニティやSDGs、ESG投資などとの関連も意識しながら、ライフスタイル革命のミッション・ステートメントおよびビジョンを早期に明確にすべきである。</li> <li>・アクティビティ・ポイント、アクティビティ・ツリーについて、面接した学生はいずれもわかりにくいという回答だった。丁寧な説明が求められる。また、学生の要望を更に汲み上げる工夫が必要であるように感じられた。学生によるとTMIの知名度は必ずしも高くないということであり、優秀な学生を持続的にリクルートしていくためにも、広報や情報発信、社会的アピールに努力して欲しい。</li> </ul>			

・新発足した東海国立大学機構における岐阜大学との具体的な連携強化が、本卓越大学院プログラムにおいても期待される。